

令和7年度 第3回静岡市生涯学習推進審議会 会議録

1. 日時 令和8年3月13日(金) 午後1時30分から午後3時30分まで

2. 会場 アイセル21 3階 31会議室

3. 出席者

【委員】 14名

新井委員、石切山委員、板谷委員、磐村委員、大石委員、亀山委員、小山委員、澤本委員、竹上委員、角替委員、西委員、山下委員、山本委員、渡邊委員

【傍聴者】 2名

【事務局】 大石生涯学習推進課長、近藤課長補佐兼生涯学習推進係長、

木下施設管理係長、油井人づくり事業推進係長

(生涯学習推進係) 宮内主査、横山主査、前田主査、清水主任主事、宇佐美主事

(人づくり推進事業係) 渡辺主査

【指定管理者】

公益財団法人静岡市文化振興財団 葵生涯学習センター 村松センター長
瀧浪次長

南部生涯学習センター 松浦センター長

長田生涯学習センター 榛葉センター長

清水区生涯学習交流館運営協議会 事務局 廣瀬課長

【教育総務課】 柴田管理主事

4. 欠席者 石渡委員

5. 議事

(1) 協議事項

第3次生涯学習推進大綱の中間見直しについて 資料1

(2) 報告事項

ア 来年度の審議会スケジュールについて 資料2

イ 生涯学習施設の運用改善について 資料3

ウ 令和7年度優良公民館表彰について 資料4

6. 会議内容

下記のとおり

角替会長

それでは、議長を務めさせていただきます。皆様、ご協力よろしくお願いいたします。
会議に先立ちまして、本日の会議録の署名人を、決めさせていただきます。

これは審議会終了後に事務局で作成する会議録について確認いただき、代表者1名に確認の署名をお願いするものです。本日の会議につきましては、石切山委員に会議録の署名人をお願いしたいところですが、よろしいでしょうか。

石切山委員

承知しました。

角替会長

よろしくお願いいたします。また会議録につきましては、後日市のホームページに掲載されることも皆様ご注意ください。では議事に入りたいと思います。（1）協議事項の第3次生涯学習推進大綱の中間見直しについて事務局より説明お願いいたします。

事務局

まず資料1-1をご覧ください。

振り返りの意味を込めまして、前期推進計画期間での主な目的というところであります。

一つ目に、第2次大綱から第3次大綱への転換時期においてコロナ禍に生涯学習施設における主催共催講座参加人数が大幅に減少し、学んだことを地域や社会での活動に生かしている市民の割合も減少していたため、従来の参加者層だけではなく、幅広い層に対する社会ニーズを適切に捉えることに加え、ポストコロナ社会に対応したデジタルツールの活用など、多様な学習形態に対応した事業構成にしまして、利用の少ない現役層にとって魅力を感じられ、使いやすい施設運用に取り組む必要がありました。

このことにより、第3次大綱につきましては、第2次大綱の理念や基本的指針を継承し、社会人の学び直し、リカレント教育であったり、リスキリングというところを方針の主軸としまして、各施策の柱にリーディングプロジェクトを位置付けて展開していくという計画になっております。

続きまして現状分析です。市民意識調査の結果につきましてご説明いたします。資料1-2をご覧ください。今年10月に実施しましたスポーツ活動・生涯学習に関する市民意識調査報告書についてご説明いたします。

まず、前回調査時はコロナ禍である令和3年度に実施しているため、外出を控え、自宅学習とか個人学習が増加傾向にあったというようなことを前提に見ていただければと思います。

ピックアップしながら説明をいたします。51ページ問22になりますが、こちらは前回報告しました生涯学習をしたかという回答について、その内容を下に記載してあります。

こちらについては、図書館、博物館、美術館、科学館が+5%、他にも職場の研修というのが+4.4%となっております。

続きまして53ページ問22-1では、学校の友人または学生時代からの友人が+3%、家族が+7.9%と近い方との集まりが増えている一方、SNSの普及などにより、インターネットで知り合った人というのも増えております。これは前回に比べて+6.6%ということで特徴がうかがえます。ちなみにそのインターネットで知り合った人の内訳で最も多かったのが50代でした。意外に20~30代ではなく、50代の方が多いということです。

続きまして問23、54ページです。1年間に学ぶ分野ですが、健康・スポーツは-5.9%となりましたけども、仕事に関係のある知識の習得や資格の取得などが+3.9%、令和3年度と比べて全ての年代で増加しているという形になりました。そこからリスキリングの機運が高まっていると考えられますが、55ページの内閣府世論調査によりますと、仕事に必要な知識・技能や資格に関することの比率が一番高く、静岡市との差が顕著になっているというところであります。

続きまして問24、56ページ、生涯学習の目的というところで、自分の人生を豊かにするためというところが一番高く、教養を深めるためという回答と共に前回から増加しております。現在の仕事などに役立てるためというのが23.1%となっておりますが問23と同じように内閣府調査では、現在または当時の仕事において必要性を感じたため、というのが一番高く、こちらもやはり静岡市との差があるかと思えます。

続きまして58ページ問25となります。生涯学習を通じて身につけたことをどのように活かしているかですが、自分の人生を豊かにしている方が令和3年度に比べプラス10%と大幅に増えております。大綱の指標になっている仕事や就職活動に活かしているというのもプラス4.8%増加という結果で、こちらもやはり内閣府の調査につきましては仕事や就職の上で活かしているが一番高く静岡市との差があるかと思えます。なお、同じ大綱の指標である地域や社会での活動に活かしている人の割合につきましては、その静岡市が10.3%、世論調査の方も16.6%で、どちらも低いというような状況ではあります。

続きまして問26、61ページです。生涯学習していない理由はというところで、特に理由はないというのが+11.5%、きっかけがないが+約4%で、これを見ると生涯学習を行っていない人の3分の1以上の人はきっかけや理由があれば学びに触れるという可能性も考えられるかなと思っています。その他の意見で参考になる意見として、高齢だからという意見が多いですが、中には企業が借りられないからという意見もございました。生涯学習施設に対しての意見なのかは分かりませんが、そういった意見も参考としたいと思っています。

続きまして問27、63ページです。今後どのような場所や形態で生涯学習していきたいかですが、生涯学習したいと思わないが-2.7%となっている点が評価できます。先ほど問26で、特に理由がないと選んだ人を見てみたところ、その2分の1程度がわからないを選択しており、4分の1程度は学習したいと思わない、残りの4分の1は何かしらの学習をしてみたいと選択していました。つまり、問26で理由がないという中でも、4分の1

の人は、何かしらの学習をしてみたいとは思っているということが分かります。世論調査では、インターネットが一番高く、これも静岡市との差が出ています。基本的には静岡市の調査ではインターネットそのものは回答の選択肢としていませんが、自宅や移動中などに行う学習活動には含まれております。

続きまして問 28、これから新しく学びたい分野ですが、仕事に関係のある知識の習得や資格の取得は、令和 3 年度と大きく変わっておりません。全国の世論調査ではこちらも仕事に必要な知識・技能や資格に関することについては 38.9%となっておりまして、ここも静岡市と差が出ていると思います。また、健康・スポーツも全国的なもの比べると低いんですが、静岡市は近年プロスポーツの機運が高まっているのと、スポーツ活動の土壌があることが影響しているものと思われます。

続きまして、問 29、67 ページ、普段生涯学習に関して知りたい情報を、どのような方法で得ていますかというところですが、新聞などいわゆる紙媒体は-5.4%、SNSが+5.9%。その次のページの年代別の表を見ても、紙媒体とSNSを比較すると、50代と60代を境にして60代以上が紙媒体からの情報収集が高くなっているということが言えます。

続きまして、問 32、73 ページ、お住まいの地域に対してどのように感じていますかというところについてですけども、74 ページを見ると、地域に愛着があるかという項目で、10代の方がそう思う、どちらかというと思うが高く、若年層の方が割合が高い傾向があると思っています。

続きまして、76 ページ、3 の項目を年代ごとに見ると、1 の項目と同様に、若年層の方がそう思うとどちらかと言えばそう思うが割合が高い。30代はちょっと割合が低い傾向にあります。

問 33-1、79 ページ、こちらは複数回答ありですが、一番多かったのが仕事・勉強が忙しく時間がないが 36.5%なんですが、一方で理由はないという人も多く、人数では 130 人いました。なので、きっかけや理由があれば、地域活動に参加する可能性も考えられます。

続きまして問 34、81 ページ、前回調査したときの選択肢の市民の自発的な学習の機会の提供の表現が抽象的であったものですから削除しました。その項目が分散してその他の項目が前回と比べて全体的に割合が増加していると思われます。

続きまして問 35、今回からわからないという選択肢を入れたので、その他の項目が全体的に減少しているというふうに考えます。ただその中でも集会室、会議室、ホール、音楽室、そういったものの割合は増加しています。

続きまして、生涯学習団体に行ったアンケートです。108 ページ、3 のメンバーの年代を見てみると 60 代以上が 82.4%となっており、前回調査は 60 代以上が 80.8%だったので前回から 4 年間で 1.6%増加しています。

問 2、112 ページ、スポーツとの合同調査では地域に活かしている人の割合が 10.3%となっているのに対し、生涯学習施設利用者は 23%と高い傾向であります。また、スポーツ

との合同調査で仕事に活かしている人が30%に対して、生涯学習施設利用者の方は2.5%となっており、60代以上が多いからだと思いますが、非常に低い数値となっております。

続きまして問5、115ページ、情報をどのように得ているかというところですが、行政の広報紙と町内会の回覧や地域住民の連絡について大きく下がっています。前回調査時は令和3年度コロナ禍の影響で事業縮小や廃止に伴って市の広報も縮小しまして、自治会事業の方も見直しをされているものですから、情報量も比例して減少していると考えられます。

SNSが増加していますが、年齢別で見ると60代・70代が最も多いということが評価される点です。

資料1-2についての説明は以上でございます。

続きまして、資料1-1 成果指標ですが、こちらは資料1-3を使って説明をします。資料1-3をご覧ください。成果指標の推移であります。

1番目は、本推進計画のものです。

次のページ、施策の柱ごとに設けた成果指標について、平成25年度の市民意識調査からの推移を記載しております。

まず成果指標1の生涯学習を行っている割合ですが、平成25年度から令和3年度までは増加傾向にあります。7年度はちょっと伸びが鈍化していると。仮に令和3年度から令和7年度の増加率で計算してみますと、4年後の令和11年度につきましては54.7%となりまして、目標値とは大きく差が出る可能性があります。

また、下段には年代別推移の平成30年からグラフ化したものを掲載しております。ちなみに70代80代について、平成30年の数字がないんですが選択肢に70代以上しかありませんでしたので、70代、80代の内訳は不明です。グラフの特徴ですが、30代、40代のグラフを見てみますと、割合が右肩下がりです。成果指標自体は上がっていますが30代、40代だけは右肩下がりということです。

次のページをご覧ください。学んだことを仕事や就職活動に活かしている市民の割合ですが、こちらも基本的に増加傾向にありまして、さらに令和11年度の予想数値は目標値に近い数字となっております。同じく年代別グラフがございしますが、先ほど同様に30代、40代の割合が右肩下がりという点が特徴として見受けられます。

次のページ、成果指標3、学んだことを地域や社会に活かしている市民の割合ですが、こちらはばらつきがありまして、さらに言うとなれば令和3年度はコロナ禍あったことから、自治会活動自粛の傾向が見られて、それ以降も必要性のある事業のみに縮小した自治会などもありますので指標への影響があると考えられます。こちらは一時減少からの横ばいといった形になっております。

このため、こちらは大綱の目標値とは大きく差が出る可能性があると思います。また、同じく下段に年代別のグラフがありますが、先ほどのように30代、40代が右肩下がり、若干令和3年度は高くなっていますが、基本的には右肩下がりで見受けられます。

次のページ、3番の生涯学習を行っていないを選択した30代、40代をピックアップしまして、その理由をグラフ化しております。やはり一番多いのは育児や仕事で時間がないとなります。しかし、特に理由がないとか、きっかけがつかめないという選択も多くなっておりますので、これは消極的な理由というわけではないので、働きかけることで学んでいける可能性があると考えます。

次のページをご覧ください。

スポーツと合同調査に回答した年代別割合ですが、静岡市の年代別人口割合とほぼ一致していました。少子高齢化によって無作為抽出調査になりますので、年代別の差が大きく、40代以下の方が4分の1程度となっており、市全体の調査をした場合は、若年層の意見が見えにくい結果となってしまいます。

次のページをお願いします。総人口と15歳から64歳、働き手となる生産年齢人口ですが、この減少率をグラフ化したもので、今後減少していき、中央右の表を見てもらうと、2025年から2050年比総人口の減少率が-26%、生産年齢人口は-34%となっておりまして、どちらも大きくマイナスではあるんですが、生産年齢人口の方がより高い減少率となっております。

以上が成果指標に関する説明です。資料1-1に戻って、現状・分析(3)からです。大綱掲載事業が約200事業あるんですが生涯学習の推進に直接寄与するものが少なく、成果指標への反映が分かりづらいと、また成果指標自体も頭打ちの傾向が見られるのではと思っております。

裏面に移りまして、今後の協議内容に関わることなので、第5次静岡市総合計画についてお話しします。

前回も少しお話したところではありますが、第4次静岡市総合計画については令和12年までの計画期間ですが、中間見直しに伴い今後の方針を打ち出したところ、内容が大きく変わるということで、第5次総合計画として刷新する方が良いと議会から意見をいただいて、総合計画につきましては、2026年度から2035年度までの10年間を計画期間とする第5次総合計画として、今後議会を経て策定予定でございます。

つきましては、この5次総について資料を用意しましたが、資料1-4について、こちらを参考にさせていただきたいのですが、内容を3つほどピックアップして記載をしております。1-4については説明しませんので、資料の3(1)から説明します。

(1) 人口減少の加速により地域経済の縮小や生活関連産業の衰退、雇用の縮小など、日常生活への直接的な影響が起こる。特に若年層の流出や高齢化は地域の活力を損ない、市民一人ひとりの暮らしの質や幸福感の低下につながるおそれがあると、人口減少を強く訴えております。

(2) フォアキャスティング型の市政運営からバックキャスティング型の考え方へ転換し、「アウトプット」に重点を置くのではなく、市民にどのような幸せや暮らしの豊かさがもたらせられるかという「アウトカム」を重視しています。

(3) 多種多様な課題の解決のためには、行政の力だけでなく、市民・地域社会・企業・行政など社会全体の力による「共働・共創」が不可欠。行政は、社会の力がうまく働き、共働・共創の輪が広がるよう下支えし、結果が出るよう伴走することが必要としています。5次総については以上になります。

ご意見をいただきたいポイントですが、(1) ライフステージごとの学びを通じて、若年層への生涯学習機会を提供し、若いころから学びに携わっていくよう働きかける必要があるのではないかということで、別添参照となっておりますが、後ほど講座の提供方法というところで担当者からご説明を差し上げます。

(2) 生涯学習自体を実際に地域に活かすところまで行政主体で発展させるには限界があるかということ、(3) 4次総合計画が終わり5次総合計画として生まれ変わるため、整合性を図っている大綱への影響を検討する必要があるのではないか。

具体的には人口減少・若年層の減少に対して生涯学習を通してできる施策の展開が必要か。イ. 協働・共創のまちづくりによる安心と幸せが感じられる社会の実現、市民一人ひとりが幸せを実感する（ウェルビーイングが高い状態）にはどのような施策の展開が必要か。ウ. 現在の30代40代の方たちが50代以降も学びに消極的な傾向にあった場合や、生産年齢人口が減少した場合、将来の指標を大きく左右する可能性があるのではないか。エ. 成果指標について、単に「生涯学習をした人」ではなく、生涯学習による成果に焦点を絞り「生涯学習を通じて自分の人生が豊かになった」などのウェルビーイングに関するアウトカム指標を取り入れる必要があるか、といったところで、この1から3の部分についてご意見いただきたいと思います。

先ほど申し上げたライフステージごとの学びについては、今日資料1-1追加というのが入っていると思いますので、それを基に説明を差し上げます。

事務局

私から、ライフステージ別の学びについて説明します。お手元の資料1-1の3ページ目、公共施設におけるライフステージ別の講座提供と本日追加で配布しました資料1-1追加をご覧ください。

まず、生涯学習施設における現状の講座提供の考え方についてですが、追加資料の方にある記載のとおり、本市独自の現代的課題および地域課題の分野を設定し、分野の偏りがないように、生涯学習の機会を提供してきました。

しかし近年では、仕事と育児の両立や、キャリアの複線化、リスクリング、健康・介護課題の早期顕在化、行政手続のオンライン化など、私たちを取り巻く環境は大きく、速く変化しています。それによって、ライフステージごとに直面する生活課題が複雑化しており、講座受講後に学んだことを日々の困りごとの解決に活かせることがより重要になっています。

そこで、今後はライフステージと取り巻く環境に応じた講座を提供していく必要があるのではないかという考えに至りました。市民が人生の節目、ライフステージごとに直面す

る生活課題を解決できる力、知識、スキル、繋がりを育むことができる講座へと内容を見直し、資料の図にあるようなライフステージと取り巻く環境に応じた講座を考えてみました。

ここでいうライフステージについてですが、追加資料の上段左側にある通り、幼児、小学生、中学生、高校生、大学生、青年、壮年、高齢者の取り巻く環境の変化を意識した8つのステージに区分しています。それぞれのステージにおける対象年齢の想定は資料をご確認ください。

次に、私達を取り巻く環境の中で直面する生活課題については、私生活における課題、地域生活における課題、職業生活における課題の三つに整理しました。そして、この三つの生活課題の解決に向けた学びとして、地域の生活者としての生活力を高める学び、地域の構成員としての地域活動力を高める学び、社会人としての職業能力を高める学び、この三つの学びの柱を立てて、ライフステージに応じた必要な力を学び、役立てることができる講座プログラムを提供していくことができれば、行政が生涯学習として提供していくべき学びとして、市民の皆さんの共感や理解を得ていけるのではないかと考えています。なお、それぞれのライフステージと取り巻く環境に応じた講座のイメージは、追加資料の上段の部分をご参照ください。

説明は以上となります。

角替会長

はい、ありがとうございました。ただいま事務局の方から協議事項の説明がございましたけれども、特に1-1のご意見をいただきたいポイントというところで、(1)から(3)について、5次総に向けて大きなことがさらっと書いてあるんですが、そのことを審議会で協議したく、できれば委員の方々から多様なご意見をいただく場とさせていただきたいと思います。

委員皆さんにはご発言いただきたいと思いますが、13名の委員がおりますので大体1分ぐらいで、どんなようなことでも構いません、ご意見いただきたいポイントというふうに表示されている中でなくても構いません、順番は決めずにまずは自由にご発言いただきたいと思います。よろしくお願いします。

亀山委員

スポーツ協会の亀山と申します。誠に、私の不勉強で申し訳ないのですが、言葉のわからない点が二つほどあるのと、コロナ過の前後で非常に時代が変わったような気がしています。それについて質問と私の認識などお話をさせてください。

まず一つが、いただいた資料1-1追加の中でフレイル予防とアントレプレナーシップという単語がわからないので、言葉の意味を教えてください。

事務局

フレイルにつきましましては高齢化に伴って身体能力が落ちるのを予防していく、介護の考え方に近いものになりますので、身体能力を年が経っても、なるべく維持していこうというのがフレイル予防となります。

アントレプレナーシップにつきましましては、起業のマインド、起業していこうという気持ちという意味になります。

亀山委員

わかりました。フレイルについては生涯学習推進課だけではなく、スポーツ関係と協働していくとよろしいのかなと思いました。

それと先ほどお話をもらった件で、コロナの前後、平成から令和に切り替わって4年5年と経ち、非常に考え方が変わってきたような気がします。例えば私自身で言うと葬儀のやり方がずいぶん変わってきたように思っております。前は大勢だったのが、非常に少なくなった。そんなことを頭に置いておきながら、こういった計画や講座を考えていくのが必要かなと思います。

それと先ほど30代40代については生涯学習を行っている人の割合が減少しているという傾向ですけれども、いわゆるゆとり世代での変化ということも見逃せないことかなというふうに思いました。私も関係する団体では30代40代にちょっと違った印象を受けておりますので、この辺の認識も再度しておく必要があるかなと思いました。私からは以上です。

角替会長

亀山委員どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか。

山下委員

山下です。よろしくお願いします。

最初に資料の言葉の定義に関してですが、ご意見をいただきたいポイントのところ、若年層への生涯学習機会という部分は、私の認識では生涯学習には学校教育を含み、そこを外すのが社会教育という定義があったかと思うので、この場合は学校教育を除いたという表現が正確かなと。気になってしまったので、お伝えしておきます。

私の方がそれこそ30代40代になるのですけれども、実際に私が生活しながら感じていることとしましては、やっぱり家事育児を基本的に自分が担っていて、核家族ここに極まれりで、近くに親もおりませんので、子どもを預けてちょっと見てもらうっていうのも大変ハードルが高いです。今日も託児所を予約して、体調を崩さないよう安全にして根回ししてやっと動いているものですから、ただその反面、だからこそ子どもにいろんな場所に行ってほしい、いろんな人に会ってみてほしいっていうのはすごく感じています。ですので、幼児期からライフステージを想定して準備していただけるのはとても嬉しいなと思います。

いっそのこと思いつきで言いますが、このライフステージを横で切っていくのもそうですし、縦でも貫いたら面白いんじゃないかなと。読み聞かせなど親子遊びに来ていた幼児が小学生になりました、その小学生がお楽しみ会をしますから小さい子も来てくださいますとか、その子がまた高校生になりましたら今度は自分たちが読み聞かせを小さい子にしてあげますとか、お母さんとして参加していた方が、ちょっと落ち着いたし今度は本格的に読み聞かせやってみようかしらとか、そういう人生の中に読み聞かせというのがずっと続いているということなら、とても素敵な学び方ではないかなと思いましたし、そういう関わり方がぜひできたらなと。自分が親として子どもにやってもらったことを今度やる側に回るっていうのも学ぶ動機になるのではないかなと思いました。

資料 1-2 のご説明をいただきまして、若い子の方が地域貢献したい気持ちが強いっていうのが素晴らしいことだなと感じまして、その気持ちを持ち続けてもらうにはどうしたらいいのかなと思いました。今バリバリやっていたら 60 代以上の皆さんの背中を今のうちに見てもらって、いつかはこういうことをやりたいなという気持ちを持ち続けてもらうような仕組みができればいいなってなったときにライフステージという横で区切ってしまうと、どういう接点があるのかなと疑問に思いました。

それこそ若い世代とか学生さんが頑張っているのと、私達も何かしなきゃなと 30、40 代の親御さんの気持ちを刺激できるんじゃないかなと感じました。

角替会長

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

西委員

草薙カルテッドの西と申します。今の山下委員のご意見を伺ってすごく納得するところでした。私も 30 代ですけど私自身は県立大学に通っていたときに草薙のまちづくりに関わり始めて、今は草薙カルテッドの人間としてまちづくりを仕事にしています。大学生の頃からその当時の 30 代に差し掛かる前の方がまちづくりの活動によく参加されていて、そこから自分も年をとって他の方も年齢を重ねていく中で、当時参加されていた方たちがお子さんができたりして急にまちづくりイベントの実行委員会とかにも参加できなくなるというところを見てきたので、当然 30 代、40 代は子育てと仕事が忙しくなって、なかなか参加しづらくなるっていうのは実感としてもありますし、今私自身が 30 代になって同世代の友人たちも家庭を持ったり子どもができたりという人たちが増えてきた中で、それまでは私が誘ったものに参加できていた人たちも参加できないという方も増えてきました。その中でも未だに何かしらの社会活動に参加しているような方たちというのは、学生時代から何かしら NPO だったり、インターンとかに参加して社会人の方たちにずっとお世話になり続けていて、その関係性を断絶させたくないっていうような気持ちもあって、ずっと活動を継続しているというような人たちが多いのかなという印象があります。

なので10代20代とかから始めた活動をきっかけとした繋がりを途絶えさせないというのがやっぱり重要だと思いました。

話が変わりますが、まちづくりをしている関係で地元の小・中学校の探究学習のお手伝いとかもするんですが、お子さんたちの学校の宿題をするためにお母さんたちが私達のところにお子さんと一緒にインタビューに来ることもよくあります。お子さんにとっての学習の機会が保護者にとっても学習の機会になるような仕立てができて、子育て中の方たちも学びを得られるといいのかなと山下委員の話を聞いて思いました。私達の活動の中でそういう受け皿を用意できればいいのかと思ったりもしました。

あとは30代40代お仕事が忙しいっていう世代は、やっぱりどうしても仕事ばかりで職場と家の往復だけになってしまうっていうのもよくわかるので、企業と連携してリカレント教育を社員に受けさせる、推進する事業を奨励するような仕組みができたりするとよくて、昔のプレミアムフライデーみたいな企業から推進していくのもいいんじゃないかと思いました。

角替会長

西委員どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか。

渡邊委員

生涯学習推進課の主催するこ・こ・に講座が以前からずっと続けられて非常に好評を博していると思っているんですが、よくよく見てみますと、年度ごとに拡大したり、縮小したりという経緯をたどっていると思います。私もその中の一市民として参加して勉強させてもらっているんですが、いろんな仲間たちと話をすると、来年も参加したいと思っていた講座が突然消えてしまった、去年あたりはずいぶん縮小傾向にあったかと思います。50代までは組織に所属して、組織の中でリカレント教育ですとか、組織の必要とする学習ができる環境があると思うんですが、60代という世に放たれる自由な世代になりますと、そういう組織的な繋がりもない中では、行政が主催してくれる生涯学習の一環、こ・こ・に講座はものすごく生きる喜び励みになるということを知っています。私もそのうちの1人です。ですので、先ほどのプレゼンの中でライフステージ別の考え方を提示いただきました。それはもちろん大賛成なんですが、さらに今まで好評を博していたこ・こ・に講座をぜひまた復活するということも考えていただければありがたいかなというふうに思います。

また、毎年3月にここには交流会という交流会も過去実施されてきました。私も3回ほど参加させてもらっています。今年も楽しみにしていたのですが今年はないと事務局からお話があり非常にがっかりしてまして、こ・こ・に講座で学習を積まれた方々が一堂に会して、それぞれ成果を発表するというここには交流会、お互いに刺激を受け合いながら、さらに意欲を増す1日である空気を感じましたので、これもぜひ復活されたいと思います。併せてご提案させてもらいたいと思います。以上でございます。

角替会長

ありがとうございました。それでは、小山委員。

小山委員

小山と申します。よろしくお願いします。

1つはですね、このライフステージという考え方とても面白いと思ったんですけども、非常に難しい括りがあるかなと思ひまして、例えば私はどちらかというと高齢者の部類に入りますけれども、高齢者といっても、平均寿命が80歳を超えていますので、それぞれのステージで必要とすることが少しずつ違うんじゃないかっていうところと、目安があるのはとても良い事だと思うんですけども、あまりそこにとらわれてしまうと、また偏った形になってしまう可能性もあるのかなと思ひまして、その示し方が非常に難しいなというふうに自分でもイメージしながらお聞きしました。

それからこのウェルビーイングですが、一人一人の幸福というところは、なかなかそれぞれの思いがあって難しいなと思ひますけれども、ある程度行政のようなところが一つの目安を作っていただくのはありかなと思ひます。あくまでも指標にはなりますが、例えばこういう審議をしたりするときに、私達もどこを取って皆さんがその生涯学習をしたときに、自分にとって良かったと思っているかっていうのを判断するのは、いわゆる人数のような回数とか数字だけでは難しいところがあって、これも非常に難しい問題ではあるかと思ひますけれども、そういうものができるのはやっぱり行政というところがやっていただけると、なんとなく目安になって、自分たちもそういうところを目安に幸せのおすそ分けをもらおうっていうような気持ちになる人たちがいるのであれば、一つそこは面白いかなと思っているんで、ご検討いただければなと思ひます。

角替会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

磐村委員

ライフステージという段階を見て講座を提供するのは素晴らしいなと思ひましたけれど、ぜひ縦のつながりと言いますか、次に続くような循環の形を考えていただければと思ひます。

それと、人口減少している点について、若者も減っているんですが、実は外国人の住民が増えていて、外国人の若者は非常に幸福感もあり、キラキラしていて活力もあります。こういう外国人の若者をぜひ生涯学習の場に呼んで参加してもらって、共に静岡市を活性化させ楽しくなるといいなというものが私の願いでもあります。

竹上委員

資料 1-1 追加に書かれている高齢者に片足突っ込んでいますけれども、この表の中にあります、ライフステージ別の講座に地域性というものも考慮していただけたらなと思っています。現在私三保に住んでいるんですけど、三保地域は若年層が少なくなってきたまして、中学校 1 学年 1 クラス以下ぐらいしかないんですね。歩いていると高齢者の方が大半で後は新しく引っ越してきた若い世代が少しいるかなというような町です。また、私もこ・こ・に講座をいくつか参加させてもらったんですが、そのような講座は駿河区か葵区で開催されていまして、三保の人には結構遠いんですね。

そんなこともありまして、地域それぞれの特性があると思いますし、先ほどお話がありました外国人の方が多或少ないという地域性もあると思いますし、そういったような要素をライフステージ別、かつ、地域別、かつ、その地域性別といったところも要素に加えて講座の設定をしてあげると、そこに住んでる方たちにとってありがたいかなと思います。以上です。

角替会長

ありがとうございます。

澤本委員

小学校に勤務していますので、子どもたちの視点や保護者の視点ということで話を聞かせていただきました。2 点あります。

まず 1 点目に、10 代の地域に愛着を持っている子が多かったというのは、小学校中学校で地域の学習をたくさんやりますので、本当に成果が出ているなっていうふうに嬉しく思う反面、それが年が上がるにつれて繋がっていかないところが課題なのかなと感じました。

それから、中島小学校ですけれどもすぐ隣に児童館がありまして、子どもたちは児童館に行って、いろんな講座を受けたり遊んだりするのがすごく好きなので、やっぱり、子どもたちに生涯学習の機会を与えるためには、近いということがすごく大事なのかなと思いました。

それから 2 つ目です。30 代 40 代の右肩下がりのことについてですけれども、やっぱり今家族の形が本当に複雑化してきて、シングルな方も多いですし、また共働きの方も多かったですりってことで、やっぱり子育て世代は子育てすることだけでも大変なので、生涯学習というところにはなかなか結びつかないのかなんていう風にも思うんですが、資料 1-1 の追加の資料に、小学生の親子のデジタルリテラシーというすごく大事な内容だと思う一方で、学校でもこういう対応っていうのは、保護者会の折なんかにやったりしているので、例えばさっき言ったように家族の形が様々なことで、すごく子育てに悩んでいる、子どもがもしかして発達障害があるんじゃないとか、どこまでやったらいいのかなということ悩んでいる方もすごく多いので、どうしたらいいのか悩んでいる保護者を対象にしたような講座にすると参加者も増えるのかなって感じました。また、皆さん非常にお忙

しい世代なので、オンライン化というのも参加者が増えるのかなと思いました。以上です。

大石委員

資料 1-1、4（2）生涯学習自体を実際に地域に活かすところまで行政主体で発展させるには難しいということですが、私は自治会の所属ですので、生涯学習から出てきた人をうちとしては受け入れをしたいんですが、どの方が出ていらっしゃるかは一切把握していないんです。していないと同時に、そういう人の情報というものは一切自治会の方に回ってきません。地域で活躍できる人がいるにもかかわらず、それを把握することができないんです。それって何とかならないでしょうか。生涯学習だけにこだわらず、学校の方が小学生の子どもたちに地域学習を行ったりしているので、それぞれの繋がりをうまく使っていかないと、なかなか生涯学習は広がっていかないかなと思っています。

角替会長

ありがとうございました。

石切山委員

私は大学で、去年の夏に災害ボランティア団体を立ち上げたんですけども、それまで静岡県立大学には災害ボランティア団体がなくて、災害ボランティアどころか防災の団体もないので自分で立ち上げました。

学生だからといって災害ボランティアに興味がないかと言ったら全然そんなことなく、私の周りにも能登にボランティアに行きたいという人がたくさんいるのになんで団体がないんだろうって考えると、知識がないとか、行ったことがないからそういうボランティアをしていないだけで、もし誰か一緒に行ってくれる人がいるなら、災害ボランティアに参加したいんじゃないかなと思っています。なので、この資料 1-1 の追加の資料にある災害ボランティア講座イメージなどはぜひやっていただきたいと思います。

大学生がこういう施設に自主的に来ることが結構ハードル高いんですね。なので、大学を通して学生全体に講座を行っていただくと、よりよいかなと思いました。このご意見いただきたいポイントのところで、（1）に若いころから学びに携わっていくよう働きかける必要があるということをお願いしていきたいという思いはありがたいです。

資料 1-2、市民意識調査報告書 115 ページですけども、市民や生涯学習施設利用者が生涯学習に関する情報を主にどのような方法で得ていると思いますか、という間で回答にあるチラシ・ポスターとか、広報紙など、一番上から行政の生涯学習情報発信システムのところまで、私はほとんど見たことがなくて、あんまり馴染みがないです。不勉強でお恥かしいんですけども、もし若年層に情報発信・広報をするのであれば、SNSを活用していくことが必須かなって思っています。以上です。

角替会長

ありがとうございます。

板谷委員

先ほどの資料の1-2のですね、10代の年代層は愛着があるという説明がありましたけど、その年代からもう少し30代40代になると右肩下がりで非常に低いと。それぞれ事情はあると思うんですが、私は地域防災に関しては小学校中学校の学生を特に中心にした12月の静岡市の防災訓練に参加してもらっていて、子どもたちが参加すると、親御さん、保護者も来られて非常に活発になるんですね、防災のリーダーが私のように年齢層が高いので、若い層に着目をして、興味を持ってもらうということが必要なと思っているため、そういう活動しております。

一方で葵区の講話でありましたが、静岡市の人口減少の原因が若者にとって魅力的な仕事がないのということと、企業誘致しなくてはいけないこと。オフィスの空室が非常に多いため、活用して企業を呼び込むというお話がありました。今日の新聞にも出ていました。資料にあるような人口減少・若年層の減少に対して生涯学習を通じてできる施策の展開が必要かというのは、行政の方で力を入れてもらえれば、若者を呼び込み10代の子どもたちが静岡に住んでもらうというようなことも必要なと。それによって、さらに高校生大学生の地域の活動を増やしていくということになれば、もう少し生涯学習が重視されていくのではないかと思います。

そのため防災に非常に力を入れていますが、強調したいことは、子どもたちに魅力を持ってもらい、ずっと静岡に居てもらおうと活性化に繋がるんじゃないかと。そういう観点で生涯学習を考えていったらいいんじゃないかなと思いました。

角替会長

ありがとうございます。

新井委員

皆様からの意見に共感しました。学びの柱を立てる、対象者の年齢やライフステージを意識するというのは、目的などがはっきりして、学習者のニーズに合った生涯学習を提供できる点では良いのではないかなと思います。

それに加えて、成人教育的な方法論を重視したら効果が上がるのではないのかなと思います。例えば、年齢別のテーマ設定や、資料1-1追加資料の参考のライフステージ別の講座提供の説明での生活課題を解決できる力を育むには、子どもを対象にした教育的な発想であるという印象を受けました。

日々の困りごとの解消に学びを活かすことはとても大事ですが、成人教育では、日々の困りごとが一体何かを知ること自体が大人の学びの目標だったりするわけです。課題設定を支援すると成人教育では言うのですが、一体自分は何に困っているのか、困っているこ

との本質は何なのか、自分は一体何を実現したいのかということ自体を考えたり発見していくことこそが、子どもを対象とした学校教育とは違う大人の教育の特質であり核心です。ですから、学習に先立って「こういう力が必要です。だからこれをつける講座をこんなふうに作ります」という発想や仕掛けは、大人の学習としての生涯学習には適さないと率直に思います。

また、今日委員の方々から意見が出たように、市民は既に活動していて、様々な資源を持っています。大人としての能力もお持ちなので、それをエンパワメントすることが重要です。社会教育では学習のテーマを設定するよりも、活動し力を持っている市民を繋ぐとか、必要な情報を届けるとか、力を引き出すといった方法を重視していると思いますが、そうした部分があまり重視されていないところももったいないと思いました。もちろん、住民の方々が積極的に力を発揮して地域課題を解決することが望ましいですけど、そのために、「こういう力が必要だからこれを学ばせよう」というのではなく、縦割りをまたいで行政の資源を繋げたり、人材を紹介する制度を作ったり、いわゆるネットワーク型行政や社会教育行政のコーディネート機能などをもっと重視してもいいのではないのでしょうか。

具体的には、住民企画型とか住民と行政のコラボとか、行政の枠を超えたコラボ型の学習機会が今のところあまり企画されてないという印象があります。テーマについて学ぶ講座に加えて、そういうものをもっと入れても良いのではないかと思った次第です。

例えば、資料の1-2の120ページの生涯学習施設のあり方について、令和3年度だと「市民の自発的な生涯学習の機会を提供すること」が68.3%です。これは生涯学習の経験がある方たちの意見ですが、こういう機会がもっと欲しいということでしょう。しかし令和7年の調査だと、この選択肢がなくなっています。これはもったいないなと。令和3年度の回答を見ると、コラボするとか、住民に企画してもらうとか、当事者に案を出してもらって、それを行政がバックアップするような活動や事業を重視してもいいのではないかと思います。そうしたことができれば、静岡市独自の優れた学習活動が、どんどん出てくるのではないかなと思いました。ぜひ今後、そういうことも考えていただけたらなと思いました。

角替会長

ありがとうございました。

山本委員

皆さんいろいろなご意見、本当に参考となりまして、良い意見を聞きました。やはり人を集めるというのは非常に難しいんですよ。私とみなさん全然考えも違うし、行動も違うし、私は自治会とか社協とか、青年部とか、そういうのを育てています。みんな考えること同じなんてありません。若い人は若い人なりの考えがあって、人をまとめてど

うしていったらいいか、言葉にしても実行に移すってのは非常に難しいですよ。私はどっちかという、くどいくらいにみんなにお願いして協力いただいております。

特に社協の方は、大体みんな経験があるから働いてくれますけど、高齢者なんですね。大体9割ぐらいは女性です。やはり男の人の育て方が難しい。たいしたことないんですけど、「こんなのばかりしくてできない。」というが、皆さんと楽しく面白くやるのがやっぱり一番大事ですよ、それが長生きの秘訣ですよっていうことを言うと、ちょっと考えてみると言ってくれる。

そういうことがなぜ私は問いかけたかという、うちの学区で活動5回やっていますが、そのうち1会場でね、男性が12〜3名いたんですよ。そうしたら女の人が、口紅をこくしたり、着るものがおしゃれしていたり、やはりそうするとちょっと盛り上がってね、いろんな事もあるようです。その会に行くのが楽しみですという人に喜ばれるようなことをやらないと、恥ずかしいことじゃなくて、やはり皆で実行しましょうということ。

今日、資料をもらいまして、なかなかいいことも書いてあるし、私なりに、これやったらいいなということで考えています。ですから、実行に移すのは一つでも二つでもやっていただくのが大事だと思います。

角替会長

ありがとうございました。委員の皆さんから多様なご意見をいただきまして、まとめるのも難しいところなので、それぞれ事務局のほうで参考にさせていただければと思います。

私も一言よろしいですかね。さっきの資料の1-1の3(1)に「人口減少の加速により地域経済の縮小や生活関連産業の衰退、雇用の縮小など、日常生活への直接的な影響が起こる。特に若年層の流出や高齢化は地域の活力を損ない、市民一人ひとりの暮らしの質や幸福感の低下につながるおそれがある。」とかかれていて、それはそうなんだろうなと。要するに、昭和の価値観から見ると、拡大開発を進めてきた昭和的な経済成長というものの逆をいっちゃうので、いわゆる幸福感の喪失を恐れるとなるんです。ここから先は人口が必ず減少していつてしまっ、多様性は広がるんですけどコンパクト化していかざるを得ない、ダウンサイジングしていかなければいけないのに、暮らしの質が低下するということにはならない、幸福感の喪失にはならないっていうふうにしていくってことですよね。

生涯学習全体の先30年を考えたときに、コンパクトになっていく、規模が喪失するということに対して、それをポジティブに捉え直す我々の価値観の転換が最も必要で、高齢の方もいる、障害の方もいる、子どもは少なくみんな都会に行っちゃうけど帰ってくる子どももいる、コンパクトだけど楽しいっていうような価値観をもってもらおうとか、人の価値観を変えることはすごく大変ですが、学校教育では日々教育しています。人それぞれのペースで何か目標を作って、達成するっていうことは大事だっていう価値観をどこかで教え込んでいかないと、多分どうかなっちゃうんですよ。そういうところの価値観を変えていく一つの足掛かりに生涯学習をしていかないと、これから先のことを考えるとなかなか

難しいのかなと思います。ベースの考え方としては、コンパクトになっても不幸せではない、規模が小さくなっても別にいいんだっていう価値観に変えていかないとちょっと難しいのかなっていうのを資料を見て思いました。

事務局の方にはまた色々と協議していただいて計画を作っていただければと思います。

それでは、次第の3議事の(2)の来年度の審議会スケジュールについて事務局よりご説明をお願いします。

事務局

第3次静岡市生涯学習推進大綱の中間見直しスケジュール案ということで、現在の位置につきましては平成8年3月の第3回審議会であります。市民意識調査結果の報告、中間見直しの方向性の決定ということで、先ほどご意見いただいたところをこちらの方で加味して検討していきたいと思っています。

来年度につきましては、最初にやることは、令和7年度までの前期推進計画の進捗を確認します。実際に約200の事業が大綱計画の中に入っておりますので、リーディングプロジェクトを含め、事業の中間評価ということをしてもらいます。

そうした上で見直し骨子案を作成し審議会に出させていただきたいということでございます。見直し方針案としましては、主にどのような考え方でどのように変わるかといったような案をお示しできると良いかと思います。

第2回目、8月頃になるんですが、ここで後期推進計画案、こちらについては、実際に推進させていくにあたっての登載事業について、選別作業を行いたいと思っています。

最終的に10月の審議会においては、見直しの骨子案と推進計画案の最終調整を行って、中間見直しの案を11月までには確定させて、パブリックコメントが必要になるものですから、見直し案を完成させたらパブリックコメントを約1ヶ月間行い意見もらって、1月末には完成というような流れで考えております。

先ほどお話をさせてもらったんですけども、第5次総合計画が2026年度、来年度から10年間の計画期間で始まっておりますので、整合性をとっている計画について協議していきたいと思っています。それによっては少しスケジュールについても変わる可能性がありますのでご承知おきください。以上ですよろしくお願いします。

角替会長

ありがとうございました。

ただいま事務局より報告事項アの説明ございましたけれども、これに対してご意見、ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。もしご意見ご質問ありましたら意見票に記入し提出ください。

それでは報告事項イ生涯学習施設の運用改善について事務局よりご説明をお願いします。

事務局

資料3をご覧ください。

生涯学習施設の運用改善は、利用者意見を踏まえた施設利用における利便性向上を図り、利用者の視点に立った運用改善に取り組んできたものです。検討に当たっては、生涯学習推進課と各生涯学習施設の指定管理者とワーキンググループを実施してきました。

令和元年度から令和6年度までの運用改善の実績は、記載のとおりです。運用改善の主な取り組みとして、これまでに「公共的団体の整理」と「葵生涯学習センターにおける優先予約」を実施してまいりました。

そして令和7年度は、「自由利用スペースの整備・利用促進」を実施しました。

自由利用スペースとは、生涯学習施設の空きスペースにテーブルや椅子を設置し、利用者が休憩や簡単な打合せなどに利用できるスペースを言います。

つづいて、資料の裏面をご覧ください。

令和元年度から各生涯学習施設への自由利用スペースの設置を進めてきました。消防法上において居室以外の空間に備品を置くことに限りがありましたが、5施設に自由利用スペースの新規設置ができました。

新規に設置した施設は、資料に写真を掲載しておりますが、北部生涯学習センター、浜田生涯学習交流館、有度生涯学習交流館、玉川生涯学習交流館、薬科生涯学習センターの5施設です。

その他の施設については、既存のスペースを活用し、自由利用スペースに準ずる運用をすることといたしました。施設の形態や、管理上の都合により、利用スペースの用途は施設ごと異なりますが、打合せや飲食、休憩等に使用できるスペースを全施設に設置しましたので、今年度をもって「自由利用スペースの整備・利用促進」事業の完了としました。

事業の成果として、施設予約システムにあります各施設の施設情報欄に、自由利用スペースの情報を掲載しました。「自由利用スペース」を利用者の皆様に伝わりやすいように「簡易休憩スペース」と表記しています。

本事業は、一旦完了となりますが、利用者と管理者がお互いにより良い施設の運営ができるよう、今後も指定管理者と情報共有を図りながら、生涯学習施設の運用改善に努めて参ります。説明は以上となります。

角替会長

ありがとうございました。

ただいま事務局より報告事項の説明がございましたが、ご意見ご質問等お願いします。

竹上委員

生涯学習施設の予約サイトを見ますと、午前午後夜間しか予約取れない、その三つしかないんですけど、この予約ってもっと細かくすることできないんですか。1時間くらい

とか。というのも実際私が三保を使っていますと、夜間とか他の団体の方が1時間ぐらいで帰っちゃっているんですよ。すると残り2時間誰も使えないという状態になってしまいますので、ぜひそのようなフレキシブルな予約方法ができると活用度が上がるんじゃないかなと思いましたので、ぜひご検討いただければと思います。

事務局

生涯学習施設においては3コマという形にはなっているんですが、こちらについてはいろんなご要望があるかなと思いますので、利用実態に合わせてどういった利用方法が適しているのか、実態としては一時間しか使われていないようなこともあるかと思ひますし、本当に利用しやすいコマ割りっていうのはどういったものかということも、今後の施設のあり方を見直しの中で進めていこうと考えておりますので、意見としていただきまして、より良い施設の運用に繋げていけたらなというふうに考えております。以上です。

大石委員

先ほどの生涯学習施設の運用改善で、5施設終わって終了だということですよ。

空きスペースがあった場合には、それぞれの交流館ごとにそういう施設を作っているのか、例えば椅子テーブルを置いて、ちょっと打ち合わせができるスペースを作っているのかということ。それに伴って、飲食も許可してもらえるのか。今この5施設については飲食許可となっていますよね。でも今交流館の中は一切禁止になっちゃったはずなんです。

それまでに使えたはずなんですけども、その辺の考え方を聞かせていただきたい。

事務局

今回この自由利用スペースをやろうとしたきっかけというのが、居室以外の場所で空いてるところを少しでも利活用できるように、机や椅子なんかを設置して軽く打ち合わせができるようなところがあるといいねというところから始まっております。基本的には貸室になっているところは、使用料が発生する形になりますので、そちらは条例規則に基づいて取り扱っているところでありますので、そこを自由利用スペースとして設定しているものはございません。今後その貸室のあり方の中で考える可能性はあるんですが、現状はこの自由利用スペースと貸室については別物だというふうに考えています。

食事に関しましては、基本的にその交流館だったりセンターのルールに基づいた形でやっておりますので、例えば絨毯のある部屋だったりとか、臭いが届いてしまう部屋なんかは食事が禁止だったりするところもあると思うんですけども、基本的なところで、一切の食事を禁止するっていうところはこちらでまた確認をさせていただきます。

角替会長

他よろしいですか。

では次に、報告事項ウ令和7年度優良公民館表彰について事務局よりよろしくお願いいたしますします。

事務局

それでは資料4をご用意ください。まず私が前段で表彰の簡単なご説明をさせていただきます。

表彰制度ですけれども、二つ今回ご紹介をさせていただきます。

一つが、文部科学省、国の表彰でしてこちらは公民館活動の充実振興に資するため公民館、その他公民館と同等の社会教育活動を行う施設を対象としまして、特に事業内容、方法などに工夫を凝らした活動を行い、その活動成果を生かして、人作りまち作り地域作りに大きく貢献しているものを優良公民館として文部科学大臣が表彰しているものです。

今年度については、南部生涯学習センター、興津生涯学習交流館が表彰を受けることとなりました。

また二つ目の表彰としまして、県の表彰ですけれども、県内の公民館、同等の教育活動を行う施設の活動を奨励するために、生涯学習の拠点施設として優れた企画運営を行い、地域住民の学習活動に貢献し、優れた実績を上げている公民館、類似の施設に対して、静岡県教育長が表彰しているものです。

今年度については、長田生涯学習センターと船越生涯学習交流館が表彰を受けることとなりました。

本日はこの4施設の取り組みにつきまして、それぞれの指定管理者より説明をしていただきます。

まず、優良公民館表彰について、南部生涯学習センターからお願いいたします。

南部生涯学習センター

この度は栄えある賞をいただきまして。これもひとえに活動して下さる皆様のおかげと感謝しております。またこの報告の機会を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。

資料の4-1をご覧ください。

主に画面をざっとまとめて説明させていただきたいと思います。

今回の優良公民館表彰にあたりまして、これが国へ出した資料となっております様々な課題に対しての取り組みでございますけれども、特徴あるものということで、今回は約10年活動が継続しております南部花いっぱいプロジェクトというボランティア養成の事業を報告いたしまして、表彰いただくことになりました。まず取り組みを進めた要因背景などですけれども、生涯学習センターが取り組むべき課題の一つまちづくりの主役となる人材の育成というのを考えたときに南部地域自治会などの管理する方が多数存在していることに着目しまして、まずは身近な花壇作り、おうちのプランターなどでもそういったところ

から第一歩としまして、ゆくゆくは地域の花壇ですとか環境整備といったことに関わる人材の育成ということを目標としまして、取り組みを始めました。

平成 27 年度から始まった事業でございますが、この取り組みに当たりまして、最初に賛同してご協力くださった先生が今もご指導くださっているんですけども、過去にはヨーロッパに留学されてデザインの勉強をしてきて、庭園やフラワーアレンジに精通している国家 1 級技能士の先生をお迎えいたしまして、様々な花にまつわることを教えてください先生と、集まりました会議の方、ボランティアの方現在は 11 名ですけども、その方々と一緒に概ね月 1 回ぐらいの講座と、それから日々花壇の水やりをローテーションで来てくださっています。先生が毎年テーマを設けた様々なデザインの花壇で、来館するお客様も、綺麗にされていますねと笑顔になって館に入ってくるという光景が見られて大変ありがたく思っております。そして、ここ数年はツインメッセで行われます産業フェアというイベントにもブース出展の機会をいただきまして、この活動の様子ですとか、この出展のための植物のアート作品などを展示しております。

そして、過去の 10 年間の間には、地域の小学校の花壇整備ですとか東静岡の花壇整備グループとの協議で情報交換なども行っており、令和 6 年度には同じ複合施設内のかがやぐ教室、教育支援センターですね、そちらと連携しまして不登校の児童生徒とともに花壇整備を行い、子どもさんの教育や地域交流にも寄与できることとなりました。

そして今年度からは、新たに紅葉山庭園の落ち葉の清掃などにもご縁をいただいて入ることになりまして、また活動の機会を広げている次第です。

私どもこれからも、この花と緑という期間でございますので、その他にも様々なあります地域の課題というか、市民の皆様の学習意欲にともに寄り添って一緒にまち作りを盛り上げていくように尽力してまいりたいと思いますので、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

(拍手)

事務局

ありがとうございました。

では次に、興津生涯学習交流館の説明をお願いいたします。

清水区生涯学習交流館運営協議会

資料は 4-2、これにつきましては、表彰申請する際に添付したものでございます。

資料の 4-3、これは当日表彰された際に、事例発表ということでパワーポイントにより詳しくしたものを添付させていただきました。

興津生涯学習交流館は、朝鮮通信使を題材とした歴史劇を行いました。これにつきましては令和 7 年度に初めにやったわけではございません。令和元年からやっております、7 回目になるかと思います。まずこの歴史劇を始めた背景というのは、平成 29 年に興

津清見寺にある資料を含む日韓の朝鮮通信使に関する資料、これがユネスコの世界の記憶に登録され多くの関心が寄せられたということを契機に、地域の歴史をもっと多くの人に知ってほしい、次の世代に繋げたい、そのためにはどのようにしたら良いかということ、自治会の方々、また地元で活動しているNPOの方と協議をした際に、平和の施設である朝鮮通信使を親しみやすくわかりやすく地元の人たちの手で発信していく方法はないかというような検討をした結果、この朝鮮通信使に関する歴史劇を興津交流館の講座としてスタートしようということで、今現在も続いているものでございます。

地元ということですので、この出演者につきましては、地元の中学生を含む一般公募参加者で7月からワークショップを行い、まず、朝鮮通信使の歴史背景などを学んだ後、9月からは県から講師を招いて、その資料をもとに10回程度研修を行います。そして練習を重ねた作品を作り上げていくというような形でやってきております。本番の舞台では多くの方が来館され、わかりやすい内容で、朝鮮通信使を知ってもらえるということができたということです。

その歴史劇の他に朝鮮通信使に関する講座として子ども歴史朝鮮通信使を学ぼう in 清見寺と題して、子どもたちに郷土を理解し、また郷土愛を育む目的で講座を開催しております。また、この朝鮮通信使の再現行列なども行っており、パワーポイントの中にある衣装をまとして、興津の街中を行列するというようなことも行っております。

その他の興津生涯学習交流館の取り組みとしては、興津の歴史的著名人として西園寺公望と坐漁荘と題し歴史朗読会なども交流館の講座として行っております。坐漁荘は、最後の元老で総理大臣を2度務めた西園寺公望が果たした決定であるということで、興津には歴史的背景や、歴史的建造物の価値を後世に継承する活動を、地域住民と交流館が共に魅力的な地域作りの推進を目的に取り組みを常に行っているというところでございます。

以上が興津生涯学習交流館の受賞事業の説明でございます。

(拍手)

事務局

ありがとうございました。

次に、静岡県教育長表彰について、長田生涯学習センターからご説明お願いいたします。

長田生涯学習センター

資料は、4-4と4-5になります。4-4と4-5は、先日、優良公民館表彰で事例発表した際に使った資料となりますが、4-5の資料を見ながら説明させていただきます。

長田生涯学習センターは、資料にありますとおり、静岡市の中心部から西に渡った地域となります。ご覧のとおり、長田生涯学習センターの近くには、用宗港であったり、自然豊かなみかんであったり、桃の栽培が盛んな地域となっております。そういう盛んな地域

ではあるんですけども、長田生涯学習センターでは高齢化が進んでいて、長田西学区で見ると総数が1万2,621人中60歳以上が5,195人と41%が高齢者となっております。10年経つとさらに増える見込みで、高齢化が進んでいるエリアです。

その中で、この長田5学区では、お互いを助け合う、ボランティア活動やS形デイサービスなどが盛んに行われている活発な地域でもあります。社会福祉協議会や地域包括支援センターと協力して、高齢者に向けた取り組みを行っています。地域ではゴミ出しや電球の取り替え、草取りなどちょっとしたボランティアをする活動が各自治会で行われています。ただ、どの自治会でも人材が不足、後継者がいないという状況にあり、その課題解決に向けて、センターでも協力しようと実施している講座となります。

また、この講座では、地域にこんな活動をしているという紹介も含めた取り組みとなっております。そこでご紹介いたしますのが、地域ボランティア人材育成講座です。こちらは平成31年より継続して実施している講座となっております。長田5学区中、4学区が行っているボランティア活動を地域に広めること、ボランティアの人材を増やすこと、地域ごとの交流を図り、お互いの課題解決に結びつけることを目的に、人材養成講座を実施しております。

チラシを入れさせていただいているんですけど、自治会ではこのような形で配布させていただいています。実際のボランティア活動ですが、電球の取り換えや草取り、木の手入れ、ゴミ出しなど依頼者から連絡を受けてボランティアが活動します。こちら令和6年度に実施した講座ですが、蒲原学区と長田東学区のボランティア活動の発表と実践でした。プログラムは最初にボランティアの基礎知識や活動の意義について説明した後、地域で行われている生活支援の実践例を挙げました。2回目のボランティアの活動の日に地域で行われている活動の体験で、みんなで歌う会や傾聴、散歩の付き添いなどの体験をしました。

第3回は大学の講師をコーディネーターに迎え、長田地域の福祉や支え合い活動について討論を実施いたしました。感想の中には、「各地区のやり方が参考になるものがあつた。」「自分でも片付けや掃除ならできそうだった。」「他の地区の活動を知ることができてよかった」などの感想がありました。この事業の目的の一つである他の地域との交流を図ることができ、また、新たな人材を発掘することに繋げることができました。これらの地域では、チラシを配布したり、S型デイサービスなどで話をしたりして参加者を募っているようです。

ボランティアの登録人数は現在多いようなんですが、仕事をしている人が多く、実際に活動している人は限られているようです。どの学区でも活動している人は自治会の役員であつたり、地区の社協のスタッフであるということが多いことが課題にもなっています。

そのため、意見交換や問題解決に向け、他の学区の人と交流を行うことで、より長く活動が行えるよう講座を実施しています。また、何かやってみたいと思っている方にも橋渡しができるようにしております。どんなことをやっているかなって関心はあるけれども、いきなり入るのはためらいがあるという方や、地域のチラシでは気がつかなかったけれど

静岡市の広報で募集をしているのを見て決めたという方など、様々な方の参加がありました。

もう一つ、センターの講座を紹介させていただきたいんですが、おさだっぷという講座を実施しています。こちらは介護予防のために皆さんが健康で元気でいてもらうということで講座を実施していますが、お坊さんの話であったり、交通安全教室、最終回にはパーティーと称して包括支援センターの職員による漫才や、受講者である88歳の方のピアノの発表などを行っています。こちらの参加者も多くて、出席者は毎回50人前後います。この中にもまだまだ活躍できる方々がたくさんいらっしゃいます。一人暮らしであったり、家族を亡くして落ち込んだりしている人もいらっしゃいますが、講座にきて外に出るきっかけとなっている人もいます。中にはこの講座がきっかけで、地域の子どもの見守りを始めた方もいらっしゃいます。そんなきっかけ作りをこちらの講座でも行っていますので、こちらを紹介させていただきました。

当センターでは、引き続き、地域の人材発掘、繋がりを深めるセンターをテーマとして事業を展開していきます。高齢者の孤立防ぐことと、生きがいを持てるように、各自治会や社会福祉協議会、包括支援センターなどと協力していきます。地域でのボランティア活動が盛んになれば、地域の活性化に繋がり、孤立防止、共助の風土に繋がると考えています。

以上をもちまして、当センターの事例紹介を終わります。ご清聴ありがとうございました。

(拍手)

事務局

ありがとうございました。

最後に船越生涯学習交流館の紹介をお願いいたします。

清水区生涯学習交流館運営協議会

船越生涯学習交流館は約31年間、地域の交流館として活用してきたのですが、老朽化が進み、令和4年の3月に閉館し解体工事をしました。

令和4年度、5年度の2か年で新館の建設が行われ、令和6年度に新たに船越生涯学習交流館がオープンしたということでございます。

建替前から、地域の人たちがボランティアとして活動はしていたんですが、2年間活動ができないというような中で、今まで築いてきた地域との連携が途絶えてしまうのではないかと思います。新たな交流館を地域に密着したものにしたいとの職員の思いから、ボランティア活動を再開したいと考え、新たにボランティア養成講座というものを企画しました。企画したところ14名の地域の方が参加されました。

令和6年の5月から3日間の講座を企画しました。1日目はボランティアについて学ぶをテーマに、社会福祉協議会まで行ってボランティア活動の基本を学び、2日目は、交流館ってどんなこととし、交流館長が話した後、グループワークで何ができるかということをお話され、3日目は、実際にボランティア活動を体験することとし、職員から図書の整理や花壇の草取りなどを聞いて体験までやっていただいたということで、3日間の講座を行ったところでございます。

講座終了後、受講された全員14名の方が自らこのまま続けていきたいということで、交流館の花壇周辺の除草、プランターの植え替えなどに携わっていただきました。また交流館祭りでの交通整理、館内などにも参加していただいているということで、今現在も、ボランティア同士、年1回程度親睦を深める昼食会を開き、今後の活動やメンバーの募集などに努めているということです。講座の趣旨目的でありました新たな交流館を地域に密着した館にしたいという目的は十分達成されているかと思います。このまま引き続き活動されていくことかと考えております。

以上が船越生涯学習交流館受賞事業の説明でございます。

(拍手)

事務局

ありがとうございました。

公民館表彰の説明は以上となります。

角替会長

ありがとうございました。

ただいま事務局より報告事項ウの説明ございましたが、ご意見ご質問等はございますか。

山下委員

推進大綱の話をした後に、何だかすごく血の通った活動の話を聞いたなと心が温かくなっています。そんな活動が評価されて賞を受けているというのは、大変素晴らしいことだなと感じました。

これを学ぶとこのスキルが身につきますとかではなく、地域のみんなでこの課題に対してとかこの目標に対して頑張ってみたらとても豊かな取り組みになりましたというのは、社会教育や生涯学習の大きな価値だと再認識をしましたので、ぜひ生涯学習推進大綱にもその価値観が反映されるといいなと思いました。

また、保健福祉センターが確か9か所から3か所に再編になりましたよね。いつ、生涯学習センターや交流館が同じ話になるかというのを最近危惧しております。生涯学習における場の重要性っていうのがこういう面でも出てきているので、ぜひそういう価値がある

んだということをアピールして、できるだけ再編されず、皆が行けるところが近くにある
といいなと感じました。

角替会長

ありがとうございました。他いかがでしょうか。よろしいでしょうか
皆様ありがとうございました。本日予定していた議事は終了しました。
委員皆様から他に何かお伝えしたいことはございますか。
それではないようですので、事務局へ進行をお返しいたします。

署名 静岡市生涯学習推進審議会委員

石切み 蘭
